

基本構想の素案と原案の対照表

| 素 案 | 原 案 |
|---|--|
| <p>第1章 芦屋市の将来像</p> <p>【将来像】</p> <p>自然とみどりの中で 絆を育み “新しい暮らし文化”を創造・発信するまち</p> <p>日本は、本格的な人口減少・少子高齢社会を迎え、芦屋市の人口も大きな減少は生じないものの、徐々に高齢化が進んでいます。以前に比べると、人のつながりは希薄化してきており、身近な人同士の支え合いの力も少しずつ弱まってきているのが現状です。そこで、第4次総合計画では、ひとの絆を育てていく取り組みを中心に据えることで、すべての市民が生涯を通して、安心して生活でき、また、生きがいを感じることでできる心豊かに住み続けられるまちを目指します。</p> <p>日常生活における不安は、自然災害の激化や凶悪犯罪の発生、交通事故の増加などにより大きくなっています。行政の対策も重要ですが、それだけで全ての不安を取り除くことは困難です。市民が情報を共有し、お互いに助け合うことが重要になっています。あいさつなどの「声のかけあい」から始め、お互いに助け合う力を育てていくことを目指します。</p> <p>芦屋市は、自然とふれあいながら安心して子育てができ、子どもにとっても文化的な環境に恵まれたまちです。一方、就学前や学校教育についても、総体的には高い水準にあり、キャリア教育（社会人として自立していけるよう職業意識を持たせる教育）も進められているものの、その実効には更なる向上が望まれます。今後はより一層、質が高く安心して子育てができる環境づくりを目指します。そして、市民全体が家族のように気づかい助け合いながら子ども達を育み、自らも成長しながら、その意志と築かれた環境を次世代に受け継いでいきます。</p> <p>緑の回復は芦屋川、宮川の水と緑を活かし、まちなかの自然環境を力強く生き返らせるため、道路など骨格となる緑の都市軸を都市景観として繋げることが重要です。このようなまちづくりをとおして、自然と緑を大切にする「心の文化」を育むこと、そして、地域が主体的に取り組み、</p> | <p>第2章 市民会議が描く芦屋の将来の姿</p> <p>平成21年（2009年）5月から12月までの7か月間、47人の公募委員による市民会議を設置し、6つの部会に分かれて延べ61回もの話し合いを積み重ね、基本構想素案として提言をいただきました。</p> <p>第4次芦屋市総合計画では、この提言を尊重し、芦屋の将来の姿として引き継いでいます。</p> <p>2 - 1 芦屋の将来像</p> <p>「第4次芦屋市総合計画基本構想素案」（平成21年12月）第4次芦屋市総合計画素案作成市民会議 から</p> <p>自然とみどりの中で^{きずな はぐく}絆を育み、“新しい暮らし文化”を創造・発信するまち</p> |

| 素 案 | 原 案 |
|---|---|
| <p>市民が知性と品格に溢れ、いきいきと芦屋の歴史を語り伝える意識へと結びつく、人に優しいまちを目指します。</p> <p>これからは、芦屋市民一人ひとりがこのまちをつくっていくという意識を高め、市民が主体となって考え、行動するまちづくりが重要となります。また、いつでも誰でもが情報を共有し、気軽に参加でき、人と人が尊重し合いながら関わりあい、笑顔があふれる、市民の自発的な社会活動が行われるまちを目指します。</p> <p>これらのまちづくりを進めるため、市民と行政の協働、より市民に開かれた行政によって、市民と行政の間に相互信頼関係を築き、「新しい公」の基盤をつくりあげていきます。そして、市民目線で作られた計画の導入と市民目線で計画実施の進捗管理や行政サービスの評価を行います。さらに、行政改革の推進により、行政のスリム化、無駄の排除を継続し、財政の健全化を図るとともに、芦屋市の資源の見直し、活用を行い、知恵をしぼった事業の計画推進を行います。</p> <p>今後10年のまちづくりにおいては、芦屋のまちのスタイルである“暮らし”を礎に、市民の交流から生み出される新たな暮らしを文化ととらえ、まちの魅力につなげていく“暮らし文化”を基軸に据えます。山・川・海の恵まれた自然と街中の身近な“みどり”の中で、人と人、自然と人との絆を育み、その絆で、“暮らし文化”を創造し、発信するまちを目指します。</p> | <p>芦屋のまちのスタイルである“暮らし”を礎に、市民の交流から生み出される新たな暮らしを文化ととらえ、まちの魅力につなげていく“暮らし文化”を基軸に据え、山・川・海の恵まれた自然とまちなかの身近な“みどり”の中で、人と人、自然と人との絆(きずな)をはぐくみ、その絆(きずな)で“暮らし文化”を創造し、発信するまちを芦屋の将来像とします。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>市民会議での芦屋国際文化住宅都市建設法についての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時は「都市」を目指していたが、今は「まち」のほうイメージと合っていて、やわらかい感じがする。 ・現在では、「国際」や「文化」は芦屋だけのことではないので、総合計画に残す必要がないのではないか。 ・「国際文化住宅都市」は芦屋を特徴付けた良い意味での遺産なので、残しておくべきではないか。 </div> <p>【芦屋の将来像と6つの視点から見た将来像】</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>芦屋の将来像</p> <p>自然とみどりの中で絆(きずな)を育(はぐく)み、“新しい暮らし文化”を創造・発信するまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全安心 「声のかけあい」から始まる「安全・安心」な一生住み続けられるまち 保健医療福祉 すべての市民が生涯安心して、生きがいを感じて心豊かに住み続けることができるまち 次世代育成 麗しの箱庭で 育ち育てる「市民家族」 市民活動 みんなでつなごう芦屋の笑顔～花と緑 山と海 知性と教養 国際文化住宅都市～ まちづくり 自然と緑を大切に「心の文化」を育み、知性と品格に溢れた人に優しいまち 行政 市民との信頼関係でつくりあげる新しい行政 </div> |

第2章 テーマ毎の将来像

第1節 安全安心

(1) テーマ毎の将来像

「声のかけあい」から始まる「安全・安心」な一生住み続けられるまち

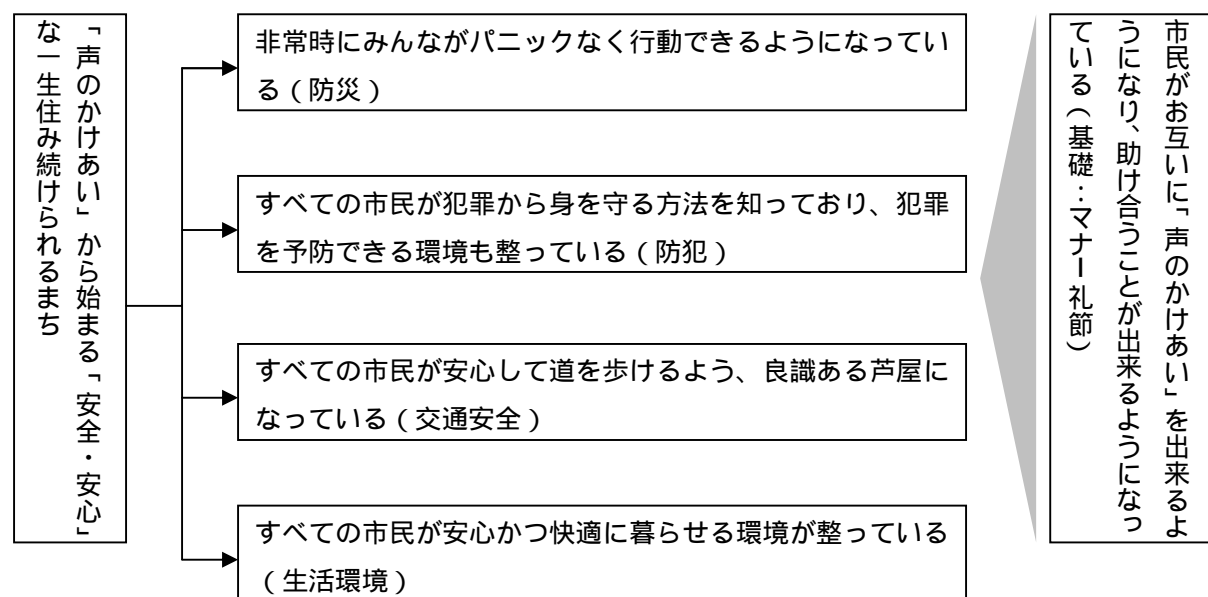
私たちの日常生活における不安要素は、自然災害の激化や凶悪犯罪の発生、交通事故の増加などを背景に増加しています。また、地球温暖化や自然環境の保全など環境への意識も高まっており、今まで以上に安全で安心な、人にも環境にもやさしいまちが求められています。

このような安全安心に対する課題の多様化に対しては、災害や犯罪を防ぐ環境づくりなどももちろん必要ですが、市民が課題を共有し、お互いに助け合うことも不可欠です。そこでまずは、あいさつなどの「声のかけあい」を市民みんなが始め、お互いに助け合う力を育てていくことが必要です。そして、その上で災害や犯罪から市民が身を守れるような取組みや、交通マナーが改善されるような取組みを行い、芦屋市をみんなが安全安心に一生住み続けられるまちにしていかなければなりません。

(2) 10年後の姿

《将来像》

《10年後の姿》



2 - 2 6つの視点から見た将来像・10年後の姿

「第4次芦屋市総合計画基本構想素案」（平成21年12月）第4次芦屋市総合計画素案作成市民会議 から

(1) 安全安心の視点から見た将来像・10年後の姿

「声のかけあい」から始まる「安全・安心」な一生住み続けられるまち

私たちの日常生活における不安要素は、自然災害の激化や凶悪犯罪の発生、交通事故などを背景に増加しています。また、地球温暖化や自然環境の保全など環境への意識も高まっており、今まで以上に安全で安心な、人にも環境にもやさしいまちが求められています。

このような安全安心に対する課題の多様化に対しては、災害や犯罪を防ぐ環境づくりなどももちろん必要ですが、市民が課題を共有し、お互いに助け合うことも不可欠です。そこでまずは、あいさつなどの「声のかけあい」を市民みんなが始め、お互いに助け合う力を育（はぐく）んでいくことが必要です。そして、その上で災害や犯罪から市民が身を守れるような取組や、交通マナーが改善されるような取組を行い、芦屋市をみんなが安全安心に一生住み続けられるまちにしていかなければなりません。

安全安心

「声のかけあい」から始まる「安全・安心」な一生住み続けられるまち

- (1-1) 非常時にみんながパニックなく行動できるようになっている
 - 防災 - 情報の集め方、伝達の仕方、共有の仕方を市民と行政が共に話し合う 災害時に地域の資源や設備を市民が有効に活用できる
- (1-2) すべての市民が犯罪から身を守る方法を知っており、犯罪を予防できる環境も整っている
 - 防犯 - 暗い道に街灯を整備して安全な都市空間に 市民自ら身を守る力をつける 犯罪発生状況の情報の迅速な提供と共有化
- (1-3) すべての市民が安心して道を歩けるよう、良識ある芦屋になっている
 - 交通安全 - 交通マナー教育 マナー違反には市民がお互いに注意する マナー違反自体に気づかせる取組
- (1-4) すべての市民が安心かつ快適に暮らせる環境が整っている
 - 生活環境 - 緑や都市環境などの安全安心の基礎を守る 新たに出てくるであろう脅威への対応準備
- (1-5) 市民がお互いに「声のかけあい」をできるようになり、助け合うことができるようになっている
 - 基礎：マナー礼節 - マナーの低下は安全安心を脅かす 「あいさつ」から地域デビューやお互いの助け合いへ

| 素 案 | 原 案 |
|--|--|
| <p>第2節 保健医療福祉</p> <p>(1) テーマ毎の将来像</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>すべての市民が生涯安心して 生きがいを感じて心豊かに 住み続けることができるまち</p> </div> <p>芦屋市の将来人口は、他の都市と比べると大きな減少傾向にはなりませんが、高齢化は着実に進んでいくことが予想されています。</p> <p>ますます進んでいく少子高齢社会の中であって、誰もが「生涯安心して暮らせる」ことを求めています。乳幼児からお年寄りまでのあらゆる年代の人、障がいのある人や闘病中の人、仕事がない人、生活が苦しい人、外国籍の人、そして今は健康であまり不安のない生活を送れている人など、誰もが「生きがいを感じて心豊かに」生活したいと望んでいます。</p> <p>そこで、第4次芦屋市総合計画における保健医療福祉分野がめざすべきまちの姿（政策目標）を「すべての市民が生涯安心して生きがいを感じて心豊かに住み続けることができるまち」を掲げ、その実現をめざします。</p> <p>(2) 10年後の姿</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>《将来像》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> <p>豊かに住み続けることができるまち すべての市民が生涯安心して、生きがいを感じて心豊かに住み続けることができるまち</p> </div> </div> <div style="width: 65%;"> <p>《10年後の姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">近隣のつながりを取り戻して支えあいの地域力が高まっています (支えあいの地域力を高める) <li style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">市民力を中心にしてまちぐるみの保健医療福祉ネットワークができています (まちぐるみの保健医療福祉ネットワークづくり) <li style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">安心して住み続けることを支える拠点がつくられています (福祉拠点の整備) <li style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">健やかで心豊かな日々を過ごせる健康づくりに取り組んでいます (心豊かな日々を実現する健康づくり) <li style="border: 1px solid black; padding: 5px;">誰にもやさしいユニバーサルデザインのまちづくりが進められています(ユニバーサルデザインのまちづくり) </div> </div> | <p>(2) 保健医療福祉の視点から見た将来像・10年後の姿</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>すべての市民が生涯安心して生きがいを感じて心豊かに住み続けることができるまち</p> </div> <p>芦屋市の将来人口は、他の都市と比べると大きな減少傾向にはなりませんが、高齢化は着実に進んでいくことが予想されています。</p> <p>ますます進んでいく少子高齢社会の中であって、誰もが「生涯安心して暮らせる」ことを求めています。乳幼児からお年寄りまでのあらゆる年代の人、障がいのある人や闘病中の人、仕事がない人、生活が苦しい人、外国籍の人、そして今は健康であまり不安のない生活を送れている人など、誰もが「生きがいを感じて心豊かに」生活したいと望んでいます。</p> <p>そこで、第4次芦屋市総合計画における保健医療福祉分野が目指すべきまちの姿を「すべての市民が生涯安心して生きがいを感じて心豊かに住み続けることができるまち」を掲げ、その実現を目指します。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>保健医療福祉</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>すべての市民が生涯安心して、生きがいを感じて心豊かに住み続けることができるまち</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(2-1) 近隣のつながりを取り戻して支えあいの地域力が高まっています - 支えあいの地域力を高める - 近隣の顔が見える人々のつながりを取り戻して支えあいの地域力を高める 市民主権の情報交換の場づくり 市民が中心となる取組を全市に広げる <li style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(2-2) 市民力を中心にしてまちぐるみの保健医療福祉ネットワークができています - まちぐるみの保健医療福祉ネットワークづくり - バラバラの情報を集約して縦割りのサービスをつなげる 行政組織間の連携や市民ニーズに基づく総合的なサービス提供 利用しやすいサービスのための身近な相談場所 専門職によるサービスの連携 <li style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(2-3) 安心して住み続けることを支える拠点がつくられています - 福祉拠点の整備 - 可能な限り地域で生活が続けられるための地域密着型の短期入所や高齢者や障がいの入所施設 市民に支えられて芦屋病院が再生して地域医療の中核となる <li style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(2-4) 健やかで心豊かな日々を過ごせる健康づくりに取り組んでいます - 心豊かな日々を実現する健康づくり - 健康づくりに活用できる空間として公園や遊歩道をなどに身近な環境を整備 市民の健康づくりの輪 健康づくりの情報の一体的提供 <li style="border: 1px solid green; padding: 5px;">(2-5) 誰にもやさしいユニバーサルデザインのまちづくりが進められています - ユニバーサルデザインのまちづくり - 高齢者や障がい者をはじめとして誰にとっても優しく安全な移動空間の確保 移動に制約のある人への支援 マイカーから徒歩・自転車・公共交通機関の利用へ </div> |

素案

原案

第3節 次世代育成

(1) テーマ毎の将来像

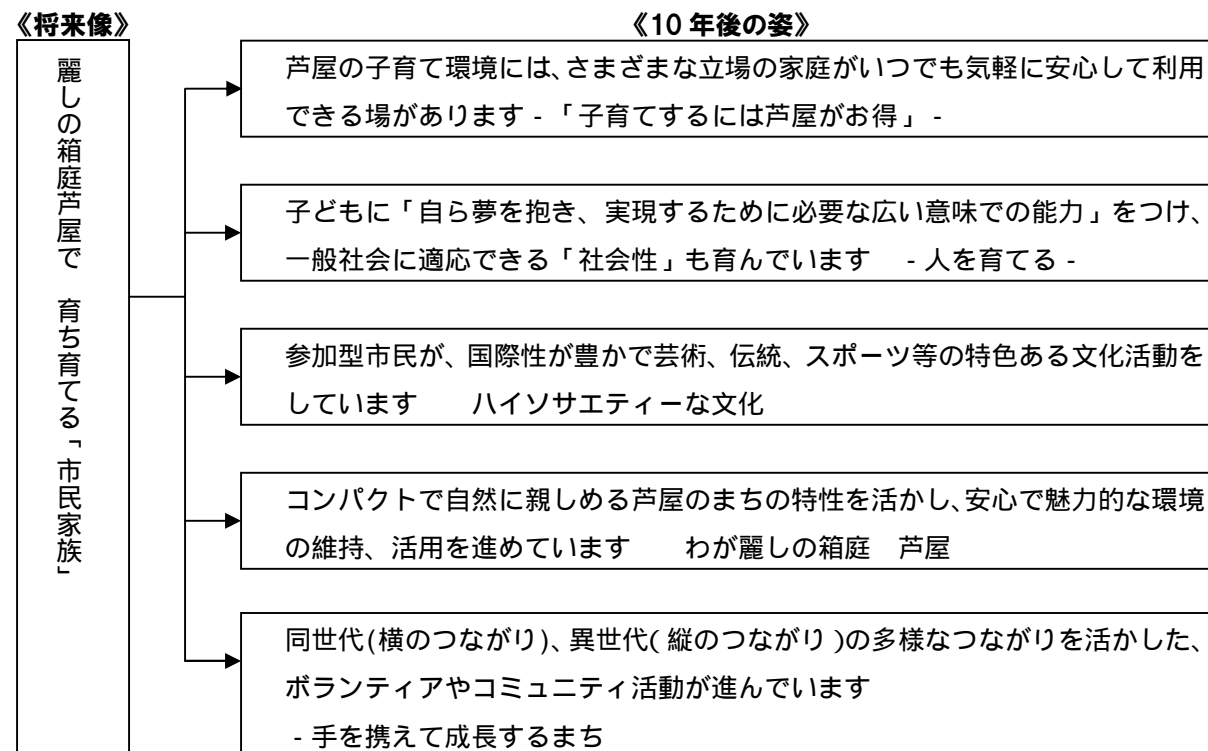
麗しの箱庭芦屋で 育ち育てる「市民家族」

芦屋市は、広域的には大阪や神戸方面、市内では東西方向の交通利便性が高いまちです。また、南北方向のつながりは弱いものの、山と海と川に囲まれコンパクトで整ったイメージがあり、自然とふれながら安心して子育てができるまちです。さらに、市民は芸術に理解があり、文化イベントも多く、子どもにとっても文化的な環境が豊かなまちです。しかし、近年、祭りなどにおいて地域での世代間のつながりが希薄化してきています。そのため、各世代のつながりや多様な知恵を活かした、安心して質の高い子育て環境づくりが望まれます。

就学前や学校教育については、一般に高い水準にあり、小学校では独自性のある教育内容が進められています。特に、勤労観・職業観と自分の将来を設計できる力を育てるキャリア教育は、小学校高学年から実施されています。しかし、卒業後自分の将来像や得意分野を見つけられない若者もでてきている状況もあり、さらにその教育を推進していくことが求められます。

今後は、身近で親しみの持てる美しい海、山、川の自然で彩られる箱庭のような芦屋で、家族のように気づかい助け合いながら子ども達を家庭・地域・学校で育み、自らも成長して次世代に受け継いでいく市民をめざします。

(2) 10年後の姿



(3) 次世代育成の視点から見た将来像・10年後の姿

麗しの箱庭芦屋で 育ち育てる「市民家族」

芦屋市は、広域的には大阪や神戸方面、市内では東西方向の交通利便性が高いまちです。また、南北方向のつながりは弱いものの、山と海と川に囲まれコンパクトで整ったイメージがあり、自然とふれながら安心して子育てができるまちです。さらに、市民は芸術に理解があり、文化イベントも多く、子どもにとっても文化的な環境が豊かなまちです。しかし、近年、祭りなどにおいて地域での世代間のつながりが希薄化してきています。そのため、各世代のつながりや多様な知恵を活かした、安心して質の高い子育て環境づくりが望まれます。

就学前や学校教育については、一般に高い水準にあり、小学校では独自性のある教育内容が進められています。特に、自分について考えたり、体験したりする教育を進めるなど、勤労観・職業観と自分の将来を設計できる力につながる教育は、小学校高学年から実施されています。しかし、卒業後自分の将来像や得意分野を見つけられない若者もでてきている状況もあり、さらにそのキャリア教育を推進していくことが求められます。

今後は、身近で親しみの持てる美しい海、山、川の自然で彩られる箱庭のような芦屋で、家族のように気づかい助け合いながら子ども達を家庭・地域・学校で育(はぐく)み、市民自らも成長して次世代に受け継いでいくまちを目指します。

次世代育成

麗しの箱庭で 育ち育てる「市民家族」

- (3-1) 芦屋の子育て環境には、さまざまな立場の家庭がいつでも気軽に利用できる場があります
 - 子育てするには芦屋がお得 - 地域の中に情報提供や交換ができる気軽に立ち寄れる場 芦屋での子育てはお得といわれる行政の子育て支援策
- (3-2) 子どもに「自ら夢を抱き、実現するために必要な広い意味での能力」をつけ、一般社会に適応できる「社会性」も育(はぐく)んでいます
 - 人を育てる - 制度・体制・施設環境や教育内容の一層の充実 教員の指導力の向上 地域特性を生かした取組(学校と地域の協働) 財政面の限界については学校と保護者双方で協力して対応 自分の目標とする将来像や得意分野を見つけられる取組 子どもたちが社会の一員であるという自覚を持って役割分担を認識し、誇りを持って生活して行ける「生きる力」を身につける
- (3-3) 参加型市民が、国際性が豊かで芸術、伝統、スポーツ等の特色ある文化活動をしています
 - ハイソサエティーな文化 - 子どもたちが身近に外国人や国外生活経験者が存在する多文化共生の環境 芦屋の自然、伝統、芸術、スポーツなどに深い関心を持ちながら育て行ける 子どもの頃から豊かな文化的雰囲気の中で人格形成や伝統の継承を大切に取る取組
- (3-4) コンパクトで自然に親しめる芦屋のまちの特性を活(い)かし、安心して魅力的な環境の維持、活用を進めています
 - わが麗しの箱庭 芦屋 - 多様な都市機能が揃うコンパクトなまちの特徴を活用 子どもたちが自然と触れ合える環境と機会が豊富にあること 南北交通の利便性の向上
- (3-5) 同世代(横のつながり)、異世代(縦のつながり)の多様なつながりを活(い)かした、ボランティアやコミュニティ活動が進んでいます
 - 手を携える成長するまち - 広範な世代の市民が多様な知恵を生かした安心して質の高い子育て環境づくり 経験豊かな高齢者の意見や力を容易に借りることができる地域社会づくり きめ細かな社会教育 家庭教育に対する子育て支援の基盤形成

| 素 案 | 原 案 |
|---|--|
| <p>第4節 市民活動</p> <p>(1) テーマ毎の将来像</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>みんなであつなごう芦屋の笑顔～花と緑 山と海 知性と教養 国際文化住宅都市～</p> </div> <p>芦屋市は北に山を抱き、南には海が広がり、花と緑に囲まれた美しいまちです。また交通の利便性もあり、住民意識も高い暮らしやすいまちです。</p> <p>市民としての自覚やマナー意識も高く、ボランティア活動や文化活動、季節のお祭りなどの活動も活発に行われており、多数の市民が参加しています。</p> <p>しかし、時代の変化と共にマナーの低下やご近所付き合いの減少なども見られます。また仕事や子育てや介護などさまざまな事情により、ボランティア活動や地域コミュニティなどに参加したいという意向を持ちながら、参加できない人や参加のきっかけを掴めずにいる人たちもいます。</p> <p>また、地方分権化や創造性と個性化社会に向けて、市民が主役で地域力を高めることにより、安全で安心な豊かな社会づくりが求められています。</p> <p>こうした課題を解消し、より住みやすい芦屋のまちをつくるためには、市民による主体的な活動が不可欠となってきます。</p> <p>今後は芦屋市民一人ひとりがこのまちをつくっていくという意識を高め、市民が主体となって考え、行動するまちづくりを推進していきます。また、いつでも誰でもが情報を共有し、気軽に参加でき、人と人が尊重し合いながら関わりあえる笑顔のあふれるまちづくりをめざし、市民による自発的な社会活動が行われる新たな時代を行政と市民が協働してつくっていきます。</p> <p>(2) 10年後の姿</p> <div style="margin-top: 20px;"> <p>《将来像》</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; margin-right: 10px;"> 国際文化住宅都市 花と緑 山と海 知性と教養 みんなであつなごう芦屋の笑顔 </div> <div style="flex-grow: 1;"> <p>《10年後の姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">行政と市民、市民と市民がお互いに支えあい助け合っています (全員参加型コミュニティ) <li style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">いつでも誰でもがまちづくりに関する情報を得ることができ、また発信しています (双方向型インフラの整備) <li style="border: 1px solid black; padding: 5px;">まちづくりの活動を牽引するべきリーダーを育て、次代につなげていきます (街づくりのリーダーの育成) </div> </div> </div> | <p>(4) 市民活動の視点から見た将来像・10年後の姿</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>みんなであつなごう芦屋の笑顔_花と緑 山と海 知性と教養 国際文化住宅都市</p> </div> <p>芦屋市は北に山を抱き、南には海が広がり、花と緑に囲まれた美しいまちです。また交通の利便性もあり、住民意識も高い暮らしやすいまちです。</p> <p>市民としての自覚やマナー意識も高く、ボランティア活動や文化活動、季節のお祭りなどの活動も活発に行われており、多数の市民が参加しています。</p> <p>しかし、時代の変化とともにマナーの低下やご近所付き合いの減少なども見られます。また仕事や子育てや介護などさまざまな事情により、ボランティア活動や地域コミュニティなどに参加したいという意向を持ちながら、参加できない人や参加のきっかけを掴めずにいる人たちもいます。</p> <p>また、地方分権化や創造性と個性化社会に向けて、市民が主役で地域力を高めることにより、安全で安心な豊かな社会づくりが求められています。</p> <p>こうした課題を解消し、より住みやすい芦屋のまちをつくるためには、市民による主体的な活動が不可欠となってきます。</p> <p>今後は芦屋市民一人ひとりがこのまちをつくっていくという意識を高め、市民が主体となって考え、行動するまちづくりを推進していきます。また、いつでも誰でもが情報を共有し、気軽に参加でき、人と人が尊重し合いながら関わりあえる笑顔のあふれるまちづくりを目指し、市民による自発的な社会活動が行われる新たな時代を市民と行政が協働してつくっていきます。</p> <div style="margin-top: 20px;"> <p>市民活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>みんなであつなごう芦屋の笑顔 花と緑 山と海 知性と教養 国際文化住宅都市</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(4-1) 行政と市民、市民と市民がお互いに支えあい助け合っています <ul style="list-style-type: none"> - 全員参加型コミュニティ - 市民と行政、市民同士が互いにコミュニケーションを密にして総合的な市民の力を高めていく 潜在的な市民の力を引き出す 個々の活動の質を高め、連携する <li style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(4-2) いつでも誰でもがまちづくりに関する情報を得ることができ、また発信しています <ul style="list-style-type: none"> - 双方向型インフラの整備 - 市報や掲示、チラシだけでなく IT 機器を活用した情報の受発信 市民全体の IT スキルを高める 様々な情報発信を連携して一元化 市民からの情報発信や市民相互の情報交換の場の整備 いつでも誰でもがまちづくりに関する情報と接することができる環境整備 <li style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(4-3) まちづくりの活動を牽引するべきリーダーを育て、次代につなげています <ul style="list-style-type: none"> - まちづくりのリーダーの育成 - 若い世代のリーダーを発掘して育成 市民の活動資金の確保 </div> |

素案

原案

第5節 まちづくり

(1) テーマ毎の将来像

自然と緑を大切にす「心の文化」を育み、知性と品格に溢れた人に優しいまち

芦屋市は、阪神間モダニズムを代表する憧れの住宅都市として発展してきました。しかし、時代の変化とともに、わがまちの多くのお屋敷の緑が消滅し、ステイタスシンボルとして地域をリードしてきた特徴が失われつつあります。再び、六甲山を背景とする自然の豊かさを取り戻し、芦屋市民の発信力を創造することが求められています。

このためには、市民が主体で、芦屋らしく、まちなかの資源を活かし、そして地域が輝くことが重要になります。着目すべき資源は、「水・緑の自然」と「市民の活動」です。

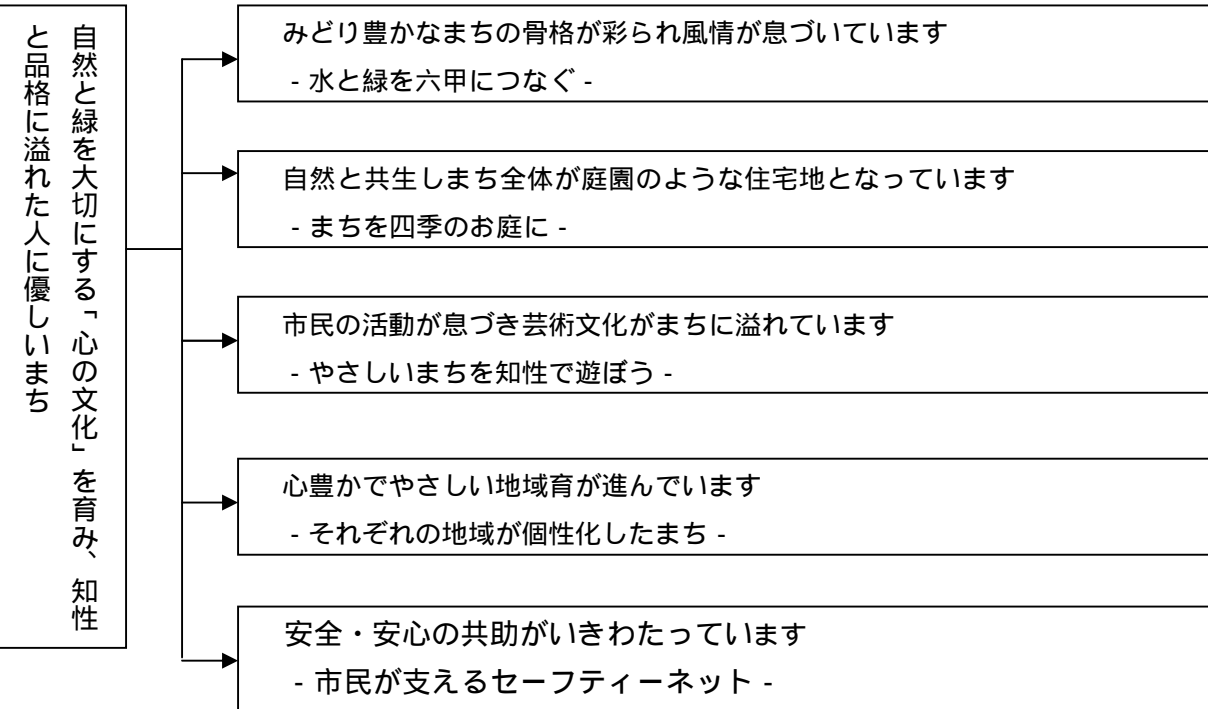
まず緑の回復は、六甲山と芦屋川、宮川の水と緑を活かし、自然環境を力強く生き返らせ、道路など骨格となる緑の都市軸を都市景観として繋げることで、芦屋の「四季」を感じ、街中が「お庭になる」ことを目指します。まちイメージの新たな創造と発展が目標となります。

次に、生活している市民の知性と品格と創造性を最大限に活かすことが大切です。このため、一流の文化とレベルをもった市民が表現する「場」や、サロンのような「交流」の機会を備えるとともに、地域が主体的にまちづくりに取り組み、市民がいきいきと芦屋の歴史を語り伝えるわがまち意識の醸成が求められます。これらの活動をとおして心の文化を育み、伝えていくことが、国際文化住宅都市 芦屋のまちづくりの目標となります。

(2) 10年後の姿

《将来像》

《10年後の姿》



(5) まちづくりの視点から見た将来像・10年後の姿

自然と緑を大切にす「心の文化」を育(はぐく)み、知性と品格に溢れた人に優しいまち

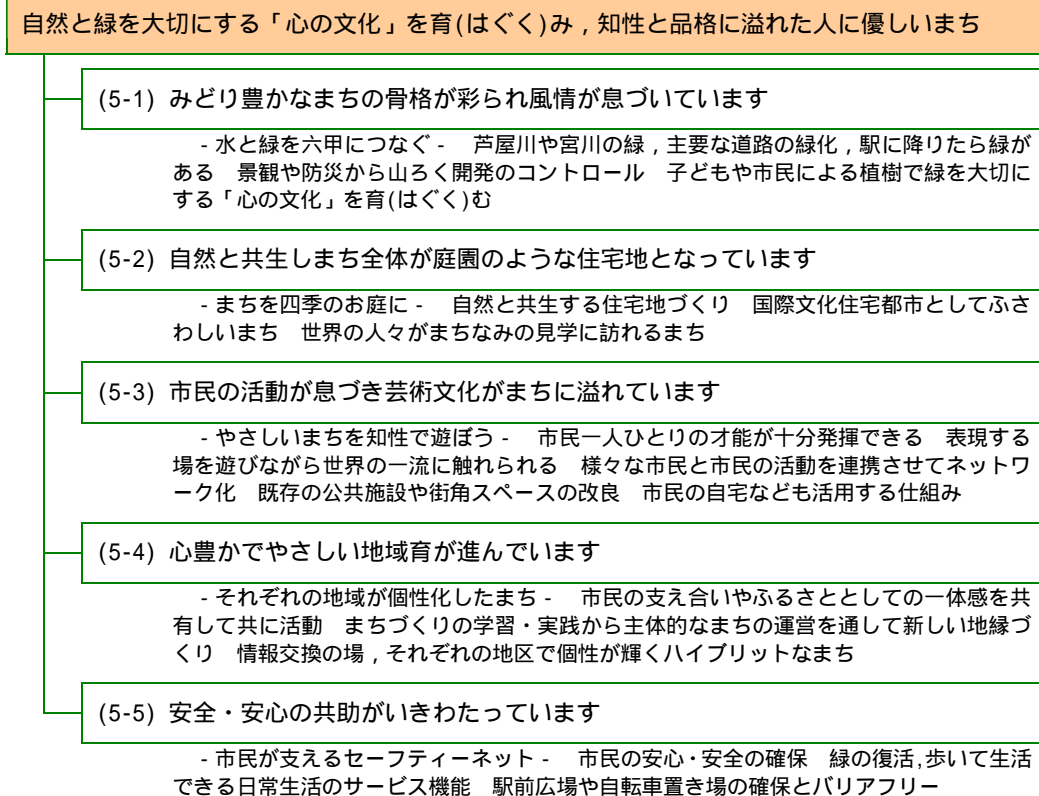
芦屋市は、阪神間モダニズムを代表する憧れの住宅都市として発展してきました。しかし、時代の変化とともに、わがまちの多くのお屋敷の緑が消滅し、ステイタスシンボルとして地域をリードしてきた特徴が失われつつあります。再び、六甲山を背景とする自然の豊かさを取り戻し、芦屋市民の発信力を創造することが求められています。

このためには、市民が主体で、芦屋らしく、まちなかの資源を活かし、そして地域が輝くことが重要になります。着目すべき資源は、「水・緑の自然」と「市民の活動」です。

まず緑の回復は、六甲山と芦屋川、宮川の水と緑を生かし、自然環境を力強く生き返らせ、道路など骨格となる緑の都市軸を都市景観として繋げることで、芦屋の「四季」を感じ、街中が「お庭になる」ことを目指します。まちイメージの新たな創造と発展が目標となります。

次に、生活している市民の知性と品格と創造性を最大限に活かすことが大切です。このため、一流の文化とレベルをもった市民が表現する「場」や、サロンのような「交流」の機会を備えるとともに、地域が主体的にまちづくりに取り組み、市民がいきいきと芦屋の歴史を語り伝えるわがまち意識の醸成が求められます。これらの活動をとおして心の文化を育(はぐく)み、伝えていくことが、国際文化住宅都市 芦屋のまちづくりの目標となります。

まちづくり



素案

原案

第6節 行政

(1) テーマ毎の将来像

市民との信頼関係でつくりあげる新しい行政（協働のまちづくり）

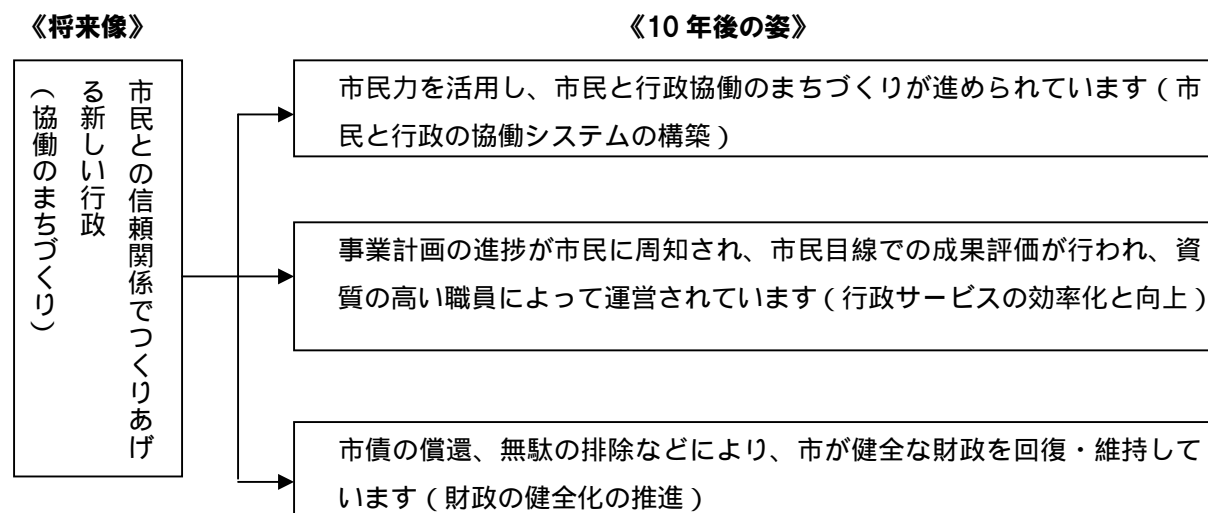
これまで、芦屋市は国際性と文化性あふれる住宅都市として、住む人が誇りを持てるまちづくりを実践し、比較的高い市民生活満足度を実現してきました。しかし今後は、地方分権化が進む中で、少子高齢化、経済成長の鈍化、地球環境浄化、ボーダレス化、ライフスタイルの変化など社会の成熟化に伴い顕在化する様々な課題にも対応できる、自立した地方行政が求められます。芦屋市は市民と協働してこれらの課題を達成し、やすらぎを満喫して楽しく生活できる魅力ある街の実現を目指します。

このため、これまでの行政主導のまちづくりを改め、市民と行政の協働、市民目線による事業評価、より開かれた行政を通じて、市民、行政お互いの信頼関係を築き、市民、地域組織、市民活動団体、事業者など多様な主体が担う「新しい公」を基盤としたまちづくりを進める必要があります。職員一人一人、市民一人一人の顔の見える行政が、芦屋市のまちづくりをより高いレベルで結実させるキーとなります。

また、市民目線で作られた計画を、市民目線で進捗管理することが重要であり、そのためには、計画の達成度を確保する指標と目標値を設定し、定期的に指標を確認するとともに、指標の改善が見られない計画については、見直しを行うというPDCAサイクルを構築していきます。

さらに、市財政については、平成7年の阪神大震災の復興による多額の市債は、市民、行政の努力により大幅に改善されつつありますが、一刻も早く償還し、財政を健全化することが望まれます。そのためには、さらなる行政改革の推進により、行政のスリム化、無駄の排除を継続するとともに、芦屋市の資源の見直し、活用を行い、市民・行政の協調による知恵をしばった事業の計画推進を行います。

(2) 10年後の姿



(6) 行政の視点から見た将来像・10年後の姿

市民との信頼関係でつくりあげる新しい行政

これまで、芦屋市は国際性と文化性あふれる住宅都市として、住む人が誇りを持てるまちづくりを実践し、比較的高い市民生活満足度を実現してきました。しかし今後は、地方分権化が進む中で、少子高齢化、経済成長の鈍化、地球環境浄化、ボーダレス化、ライフスタイルの変化など社会の成熟化に伴い顕在化する様々な課題にも対応できる、自立した地方行政が求められます。芦屋市は市民と協働してこれらの課題を達成し、やすらぎを満喫して楽しく生活できる魅力ある街の実現を目指します。

このため、これまでの行政主導のまちづくりを改め、市民と行政の協働、市民目線による事業評価、より開かれた行政を通じて、市民、行政お互いの信頼関係を築き、市民、地域組織、市民活動団体、事業者など多様な主体が担う「新しい公」を基盤としたまちづくりを進める必要があります。職員一人ひとり、市民一人ひとりの顔の見える行政が、芦屋市のまちづくりをより高いレベルで結実させるキーとなります。

また、市民目線で作られた計画を、市民目線で進捗管理することが重要であり、そのためには、計画の達成度を確保する指標と目標値を設定し、定期的に指標を確認するとともに、指標の改善が見られない計画については、見直しを行うというPDCAサイクルを構築していきます。

さらに、市財政については、平成7年(1995年)の阪神・淡路大震災の復興による多額の市債は、市民、行政の努力により大幅に改善されつつありますが、一刻も早く償還し、財政を健全化することが望まれます。そのためには、さらなる行政改革の推進により、行政のスリム化、無駄の排除を継続するとともに、芦屋市の資源の見直し、活用を行い、市民・行政の協調による知恵をしばった事業の計画推進を行います。

